センイガイ ~おりこまれるもの~

坂牛研　5108011　伊丹　智史

日暮里の歴史

江戸～大正初期　農業

明治末期～大正　工業

大正１２年頃～　繊維業

繊維街の歴史

大正初期　市域の拡大とともに浅草から移動。

大正１２　（関東大震災）大正１４（日暮里大火）により区画整理される。

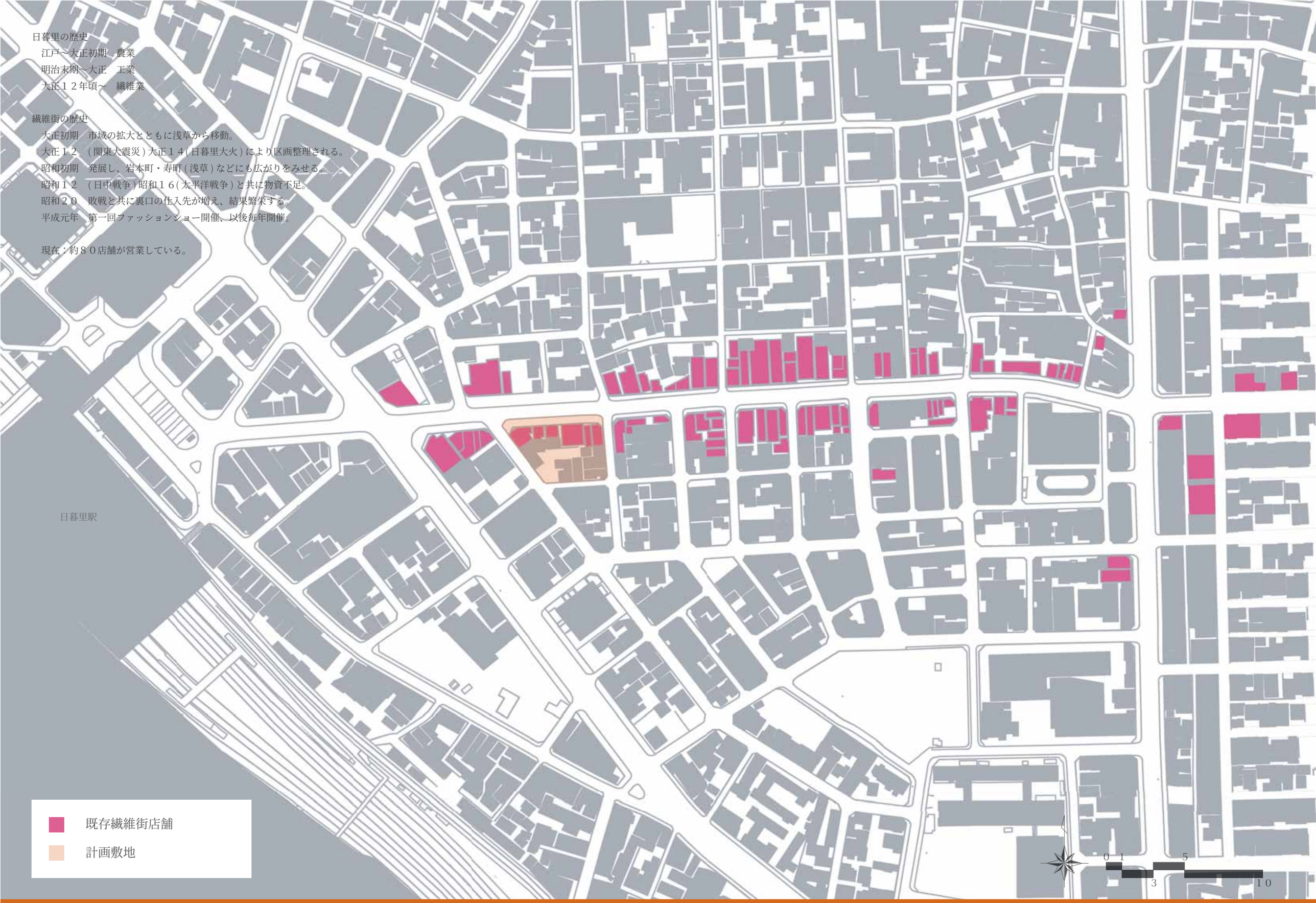
昭和初期　発展し、岩本町・寿町（浅草）などにも広がりをみせる。

昭和１２　（日中戦争）昭和１６（太平洋戦争）と共に物資不足。

昭和２０　敗戦と共に裏口の仕入先が増え、結果繁栄する。

平成元年　第一回ファッションショー開催、以後毎年開催。

現在：約８０店舗が営業している。



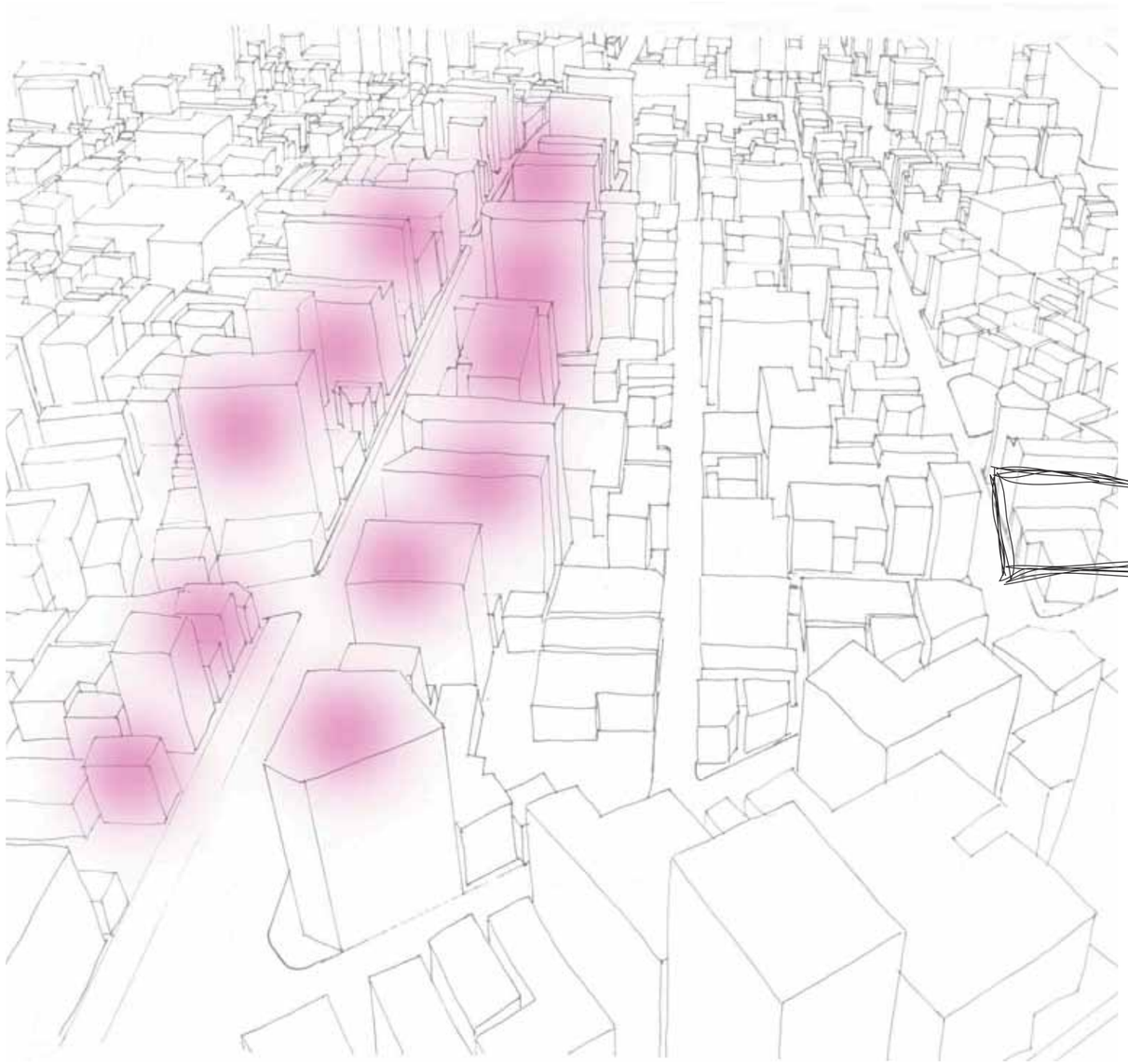
現況・敷地概要図　S=1/1000

コンセプト

日暮里繊維街は古くからある商店街で、知名度もそれなりにあり土曜日などには賑わっているのだが、繊維街のメインの通りがバスも通る交通量の多い主要道路となっており、また歩道も一部を除き広くはなってないため、買い物するスケールとしては不適切である。
そこで、繊維街入り口となるこの場所にファッションコンプレックスを提案する。

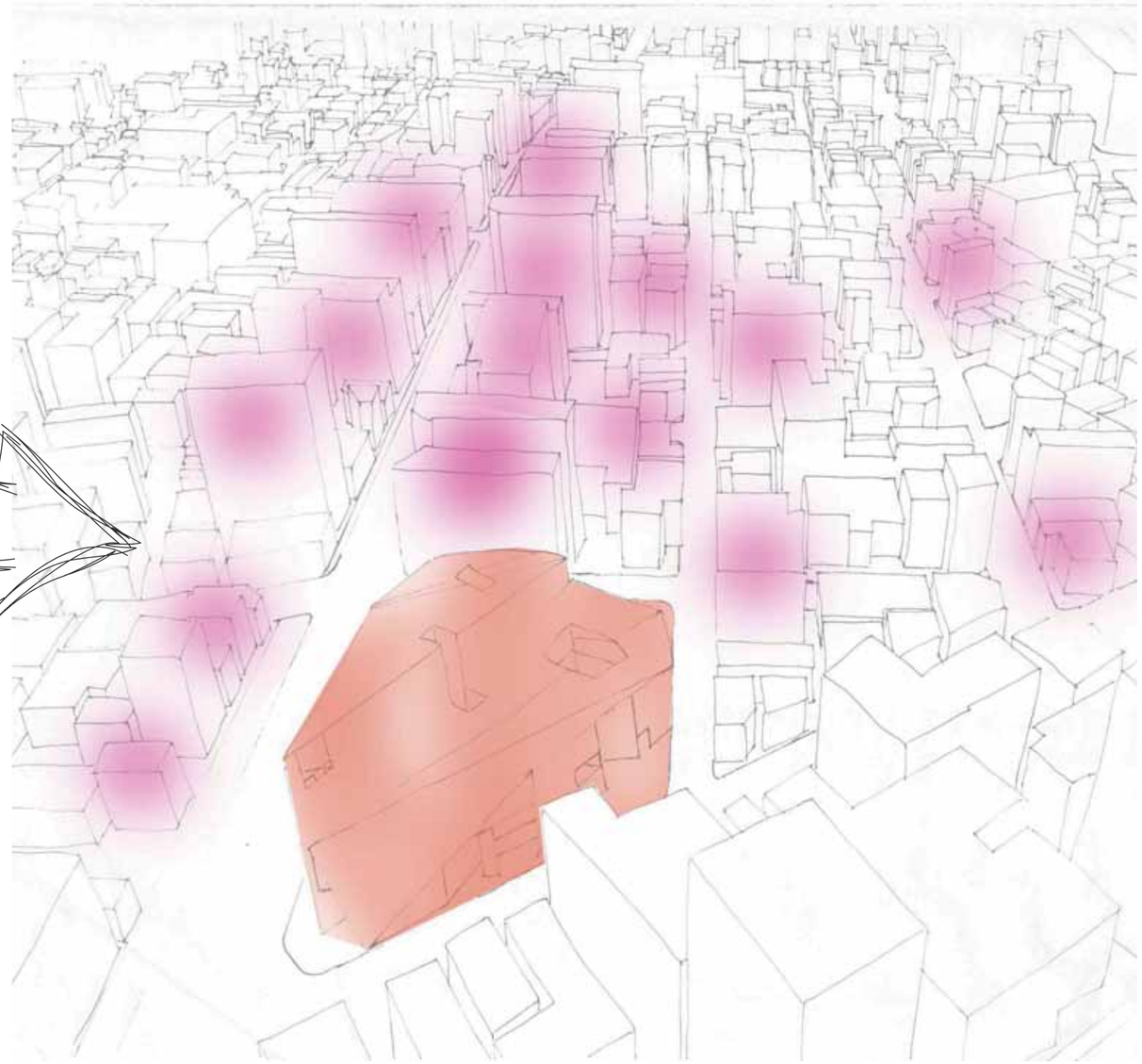
単に現状の商店街を開発するのではなく、一区画の開発をきっかけに街全体を発展することを狙いとしている。
この建築物には既存の店舗はもちろんのこと、新規店舗やオフィスを誘致し、さらに集合住宅を併設することにより、住職一体という繊維街の土着性を生かしていくことを狙っていく。
また、年一回行われている日暮里コレクションなどのイベントも開催出来るようなオープンな施設を提案する。
繊維街という日暮里の強みである商店街をより魅力的なものへと成長させる。

現在の状態



繊維街のメイン通り沿いに店舗はあるものの、
交通の多い道路のため買い物のスケールとして相応しくなく
発展が見込めない。

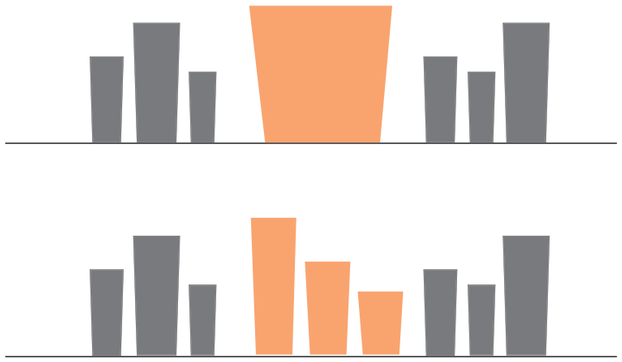
建設後の状態



一本逸れた道へと誘導するような軸線設計により、
既存の店舗はもちろん裏側の道へと街人の流れが向き、
それとともに店舗が広がり、結果として街が複層化され豊かになってゆく。

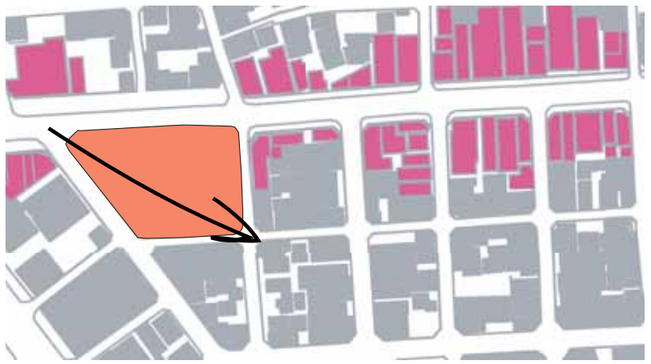
ダイアグラム１．周辺ボリュームをおりこむ。

周辺建物のスケールを織り込むことにより、調和をはかる。



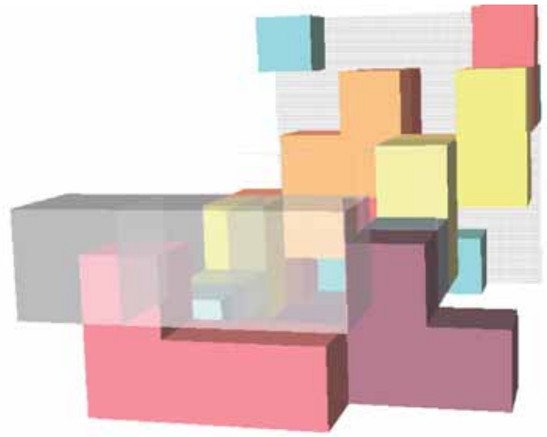
ダイアグラム２．マスタープランの軸をおりこむ。

街の一本外れた道への動線を明確にし、街の複層化をはかる。



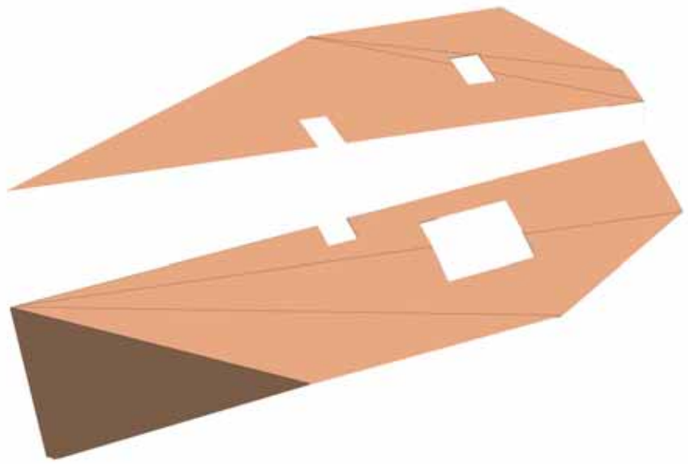
ダイアグラム３．空間のボイドをおりこむ。

平面・断面問わず様々な空間が入り交じることにより、新しい用途や偶発をはかる。



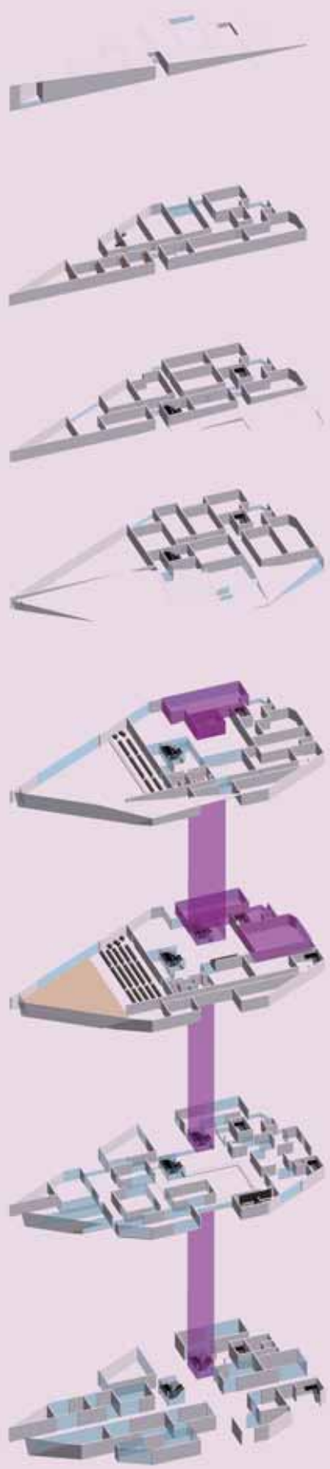
ダイアグラム４．屋根をおりこむ。

織り込むこまれることにより、空間に変化をもたらす。

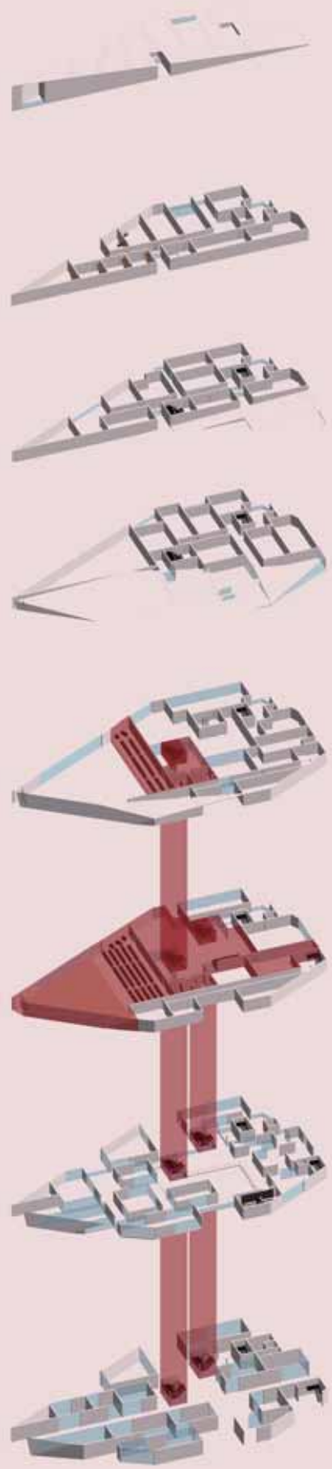


商業施設動線

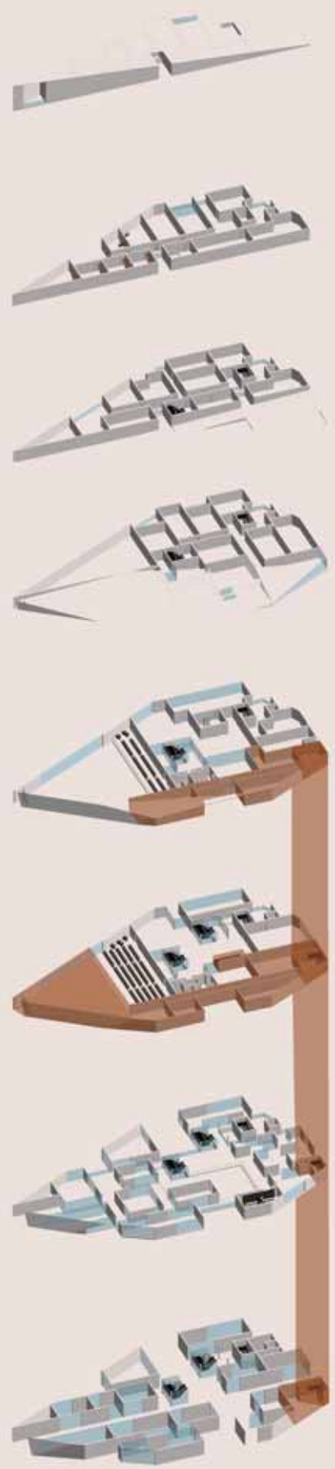
オフィス動線



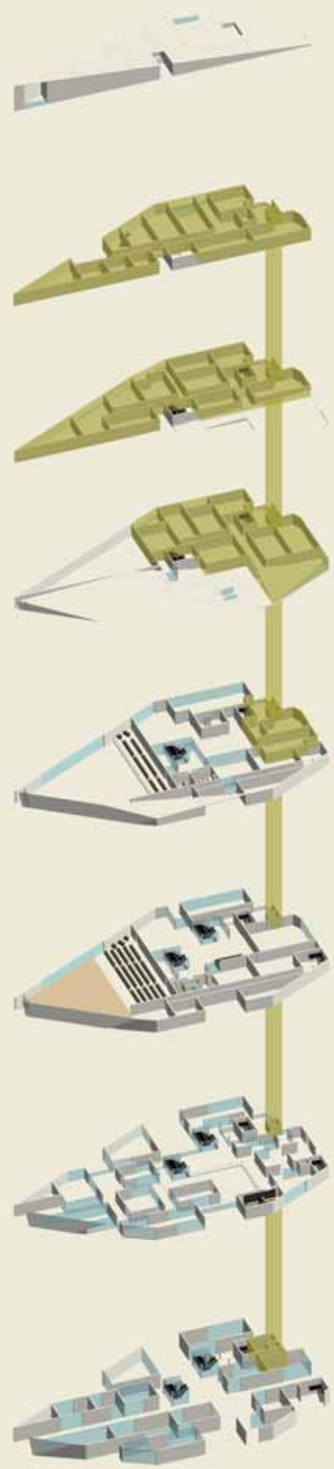
ホール来客動線



ホール裏動線



集合住宅動線

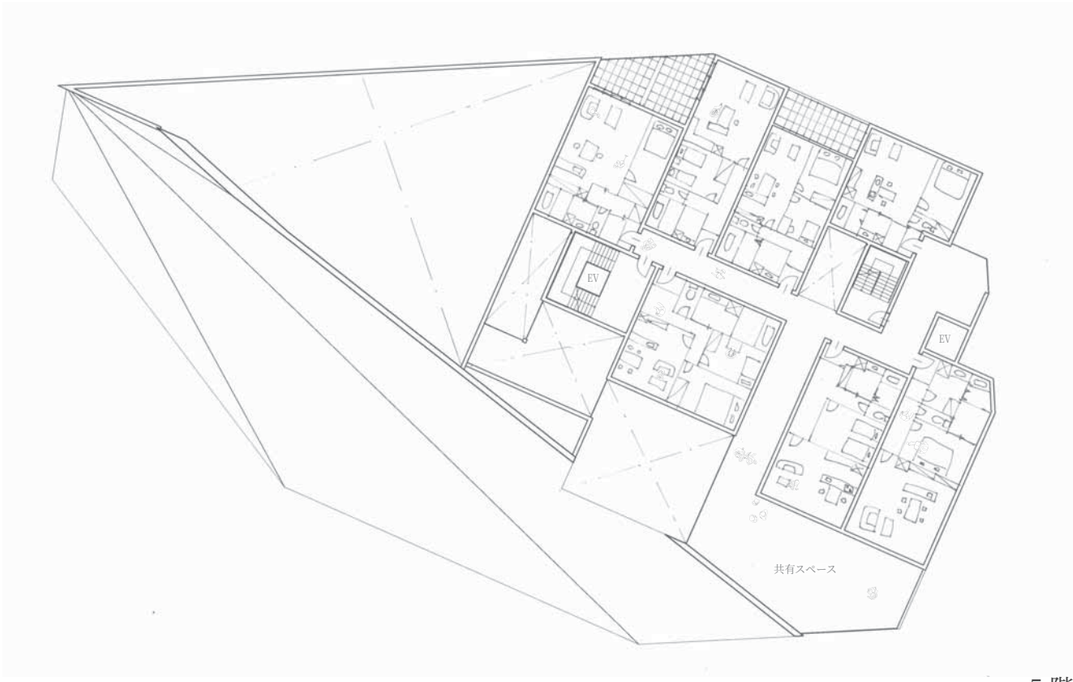


配置図・１階平面図

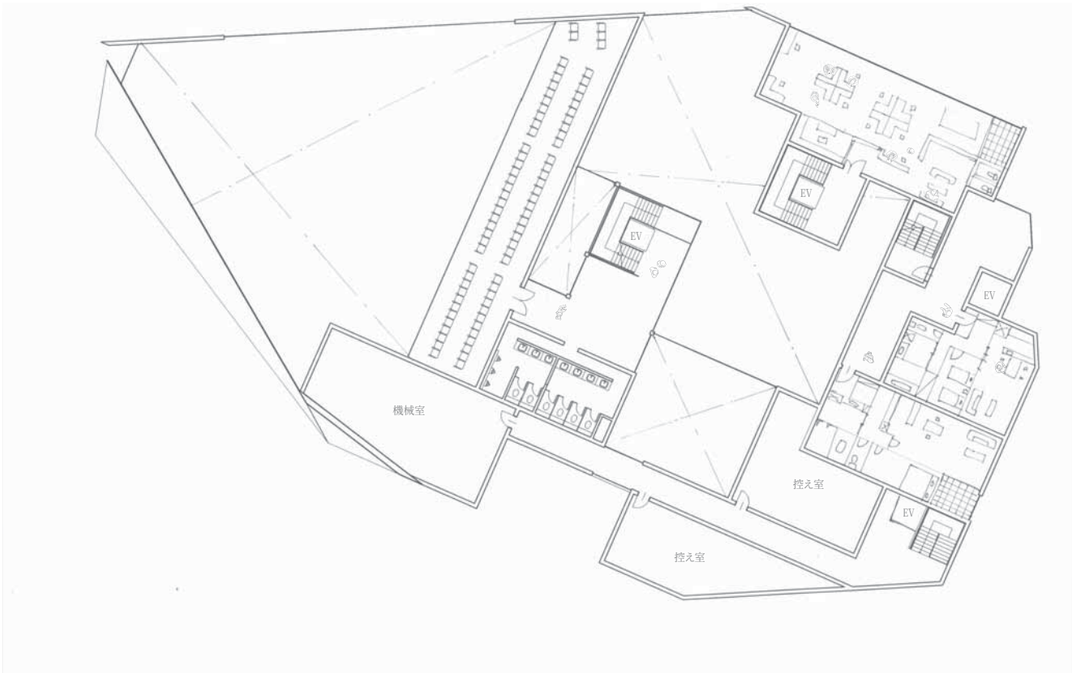
３階

２階

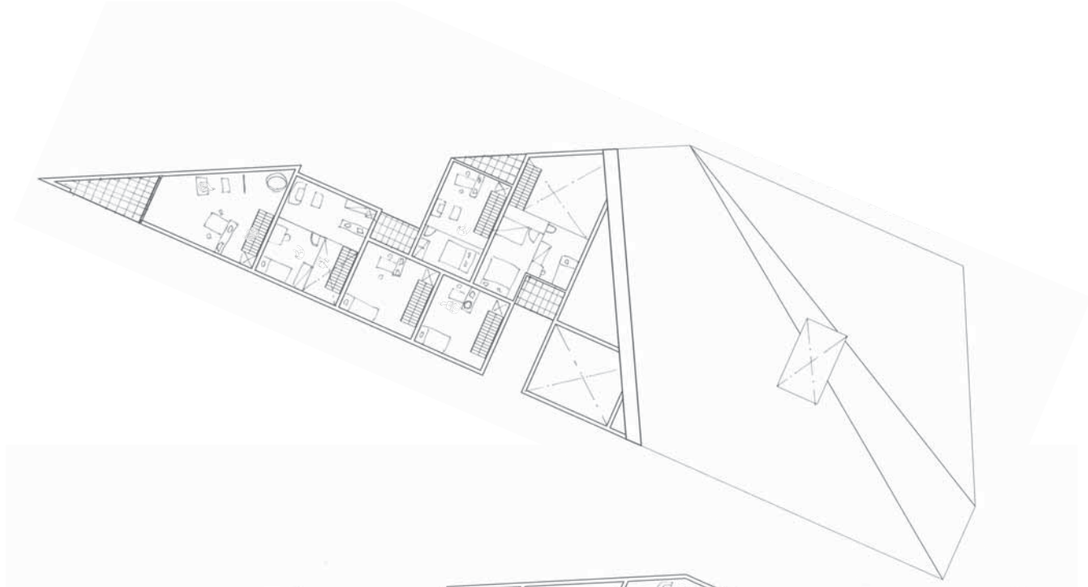
配置図・１－３階平面図　S=1/200



5 階

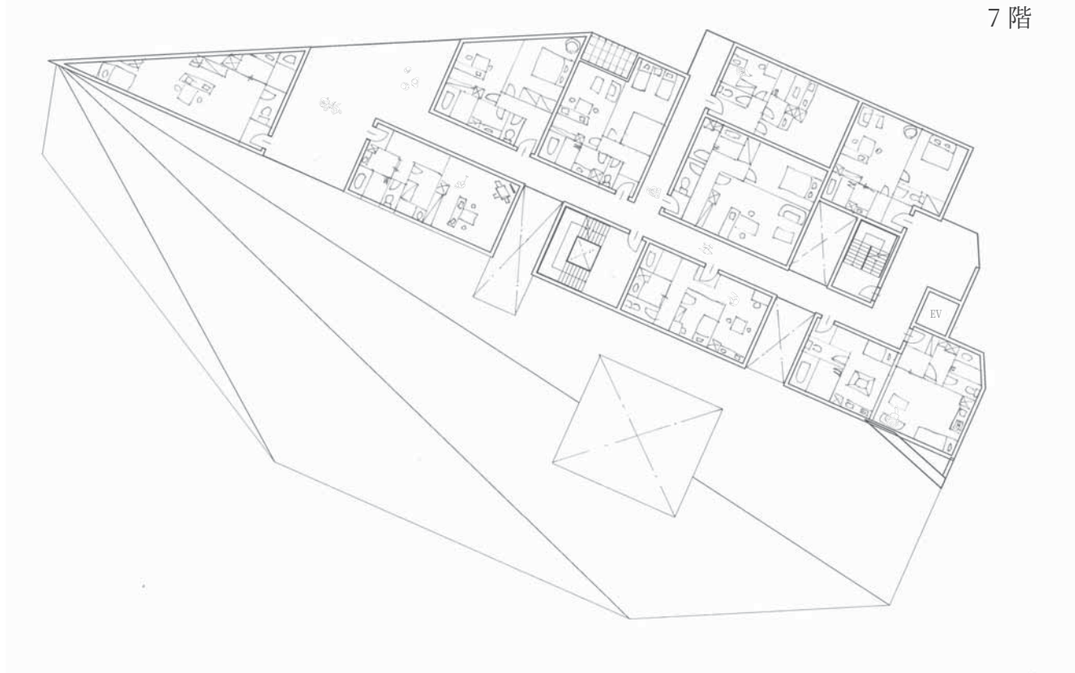


4 階



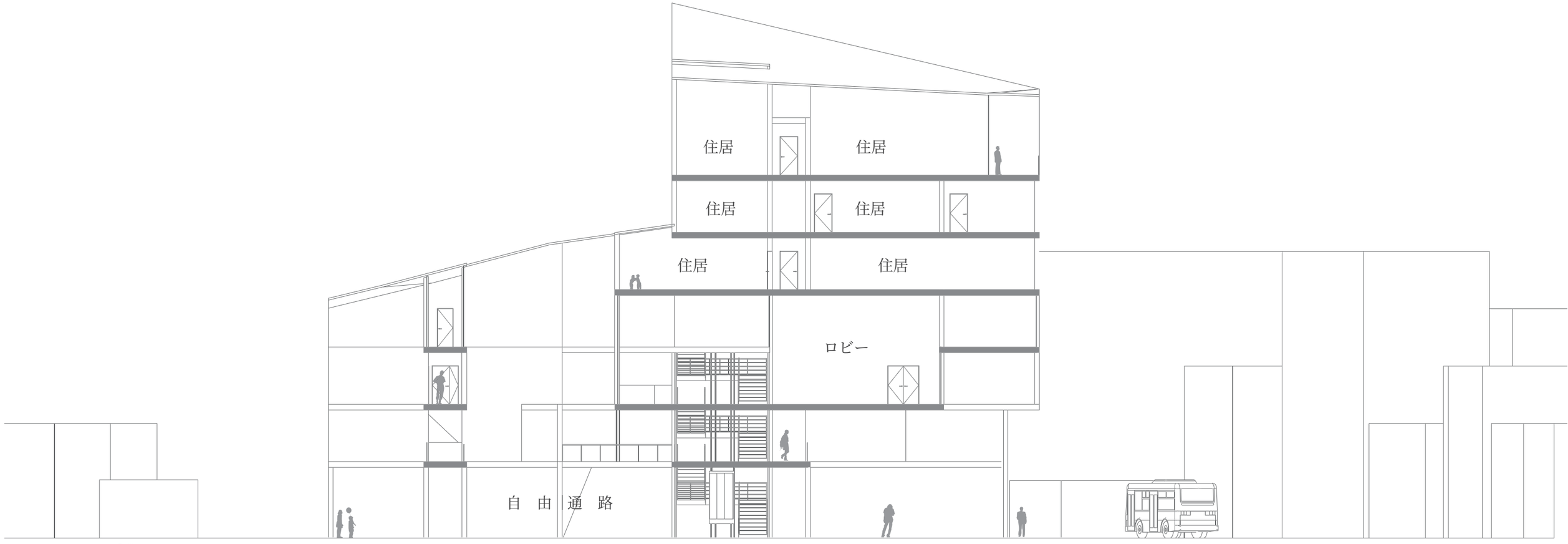
8 階

7 階

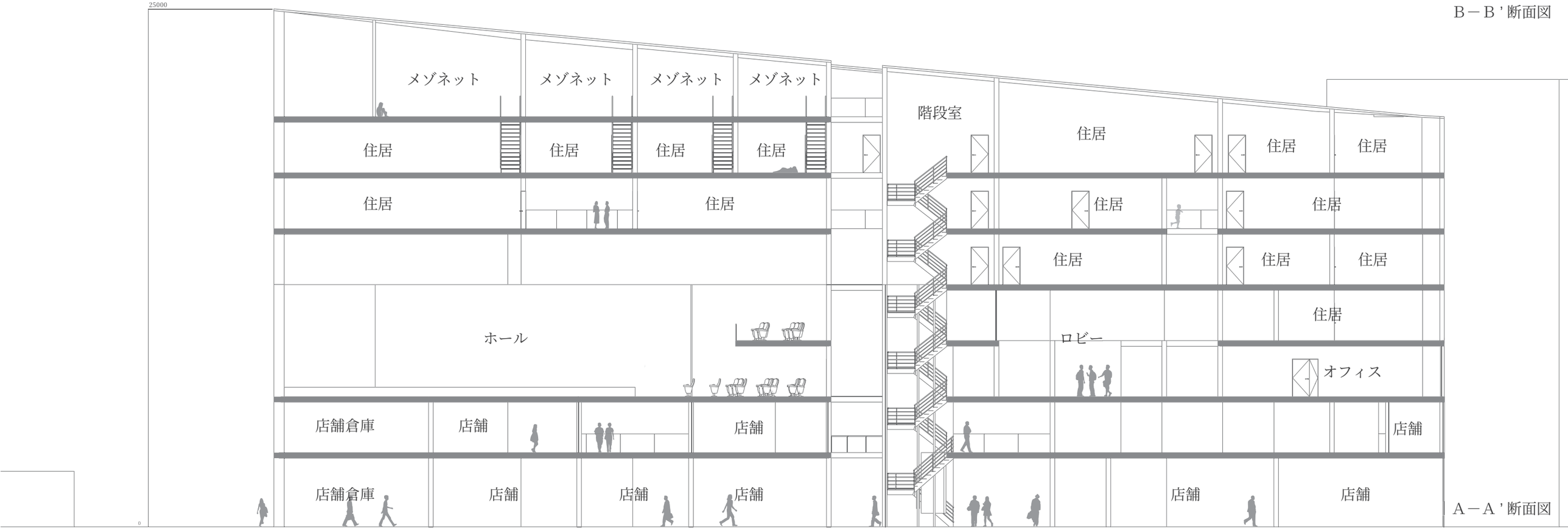


6 階

4－8階平面図　S=1/200



B－B’断面図



A－A’断面図

断面図　S=1/100

外観・内観パース